

平成27年度

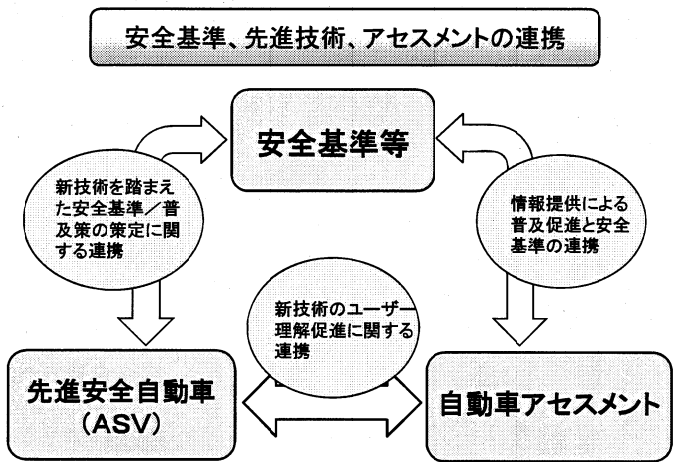
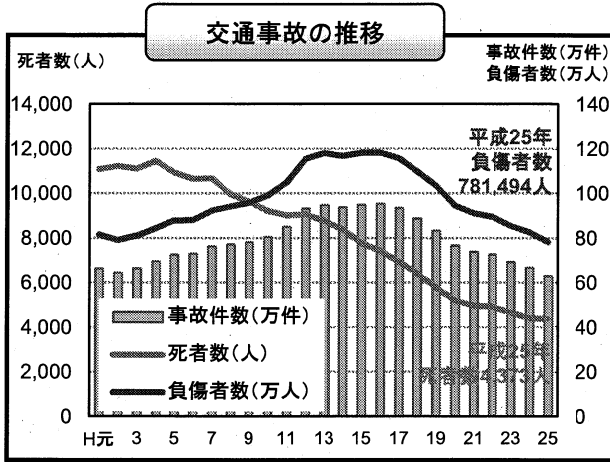
自動車局関係
予算概算要求概要

平成26年8月

国土交通省自動車局

(2) 車両の安全対策

交通事故による死傷者数の一層の低減を目指すため、事故分析及び対策の効果評価を踏まえ、安全基準の拡充・強化、ASVプロジェクト、自動車アセスメントの連携を図りながら、車両安全対策を着実に実施する。



○安全基準の策定のための調査

(要求額:183百万円)

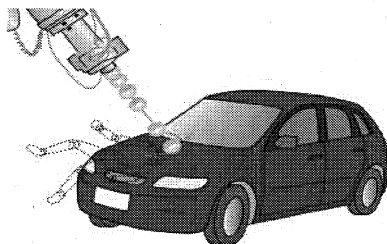
交通事故死者数削減の目標※を達成させるため、既存の車両安全対策の強化を図ることに加え、有効と考えられる追加的な車両安全対策の策定に関する検討・調査を行う。

※) 交通政策審議会陸上交通分科会自動車交通部 報告書(平成23年6月)

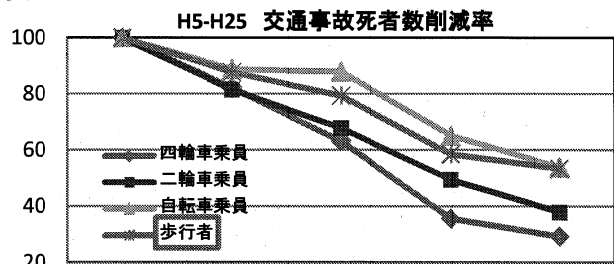
平成32年までに交通事故死者数を車両安全対策で1,000人削減(平成22年比)

●衝突時の歩行者保護基準等の拡充のための調査

自動車乗員に比べ、歩行者の死者数の減少は小幅であることから、更なる交通事故死者数の低減のためには衝突時の歩行者保護基準の強化が必要。



歩行者頭部保護試験



※ H5の死者数を100として算出

●有効な追加的な車両安全対策の基準化に関する調査(新規)

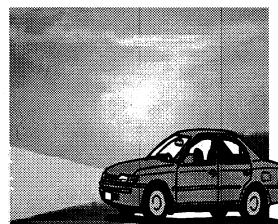
交通事故死者数削減の目標を達成するには、追加的な車両安全対策が不可欠。このため、特に効果が高いと考えられる新たな車両安全対策について、その義務化等に関する調査を実施する。

▶安全基準策定に向けた検討・調査

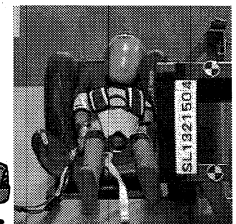
- 助手席・後部座席のシートベルト非装着警報装置
- オートライト(自動点灯装置)
- チャイルドシートの側面衝突基準(対象拡大) など



シートベルト非装着警報装置



オートライト(自動点灯装置)



チャイルドシートの側面衝突試験

○先進安全自動車(ASV)プロジェクトの推進

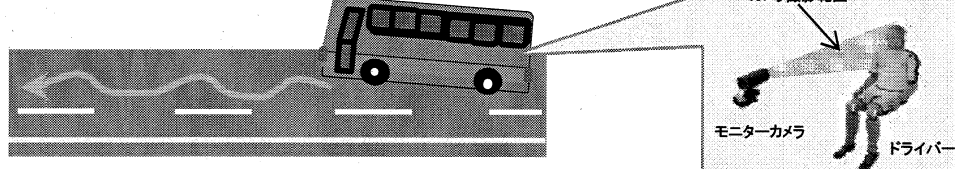
(要求額: 110百万円)

産学官の連携を図り、ドライバーの安全運転を支援する先進安全自動車(ASV)の開発・実用化・普及を促進。

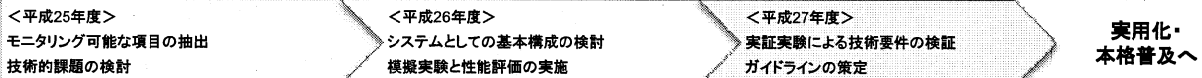
北陸道のバス事故やドライバーが運転中に失神するなどの事故を受け、ドライバーが運転不能に陥った場合に機能するシステム(ドライバー異常時対応システム)の実用化を目指し、実証実験による技術要件の検証及びガイドラインの策定を行う。

○ドライバー異常時対応システム

ドライバーの異常状態を検知して安全に自動車を自動停止するシステム



検討スケジュール



○自動車アセスメント事業

要求額： 独立行政法人自動車事故対策機構
運営費交付金 7, 107百万円の内数

自動車ユーザーがより安全な自動車やチャイルドシートを選択しやすくするとともに、自動車メーカー等により安全な製品の開発を促すため、自動車等の安全性能を調査し、公表する。

●自動車の安全性能評価の実施

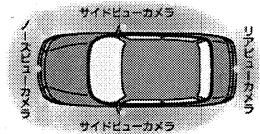
・各種衝突試験等を行い、自動車の安全性を総合的に評価。



・更なる交通事故死者数の削減を図るため、予防安全技術に関する評価を本格的に実施。



車両周辺視界情報提供装置等に関する評価を試行的に導入。



車両周辺視界情報提供装置等性能試験

●チャイルドシートの安全性能評価の実施

前面衝突時のチャイルドシートによる子供の保護性能を評価する試験(前面衝突試験)及びチャイルドシート取付の際、確実に取り付けられるように配慮されているかなどを評価する試験(使用性評価試験)を実施。

●安全性能を分かりやすく、比較しやすい形で公表

自動車アセスメント

チャイルドシートアセスメント

【関連事項】自動走行システム(SIP(戦略的イノベーション創造プログラム))

通信を利用した運転支援システムの開発・普及を促進することにより、交通事故死傷者数を低減し、世界一安全・快適な道路交通を実現する。

【日本再興戦略】

第二 3つのアクションプラン

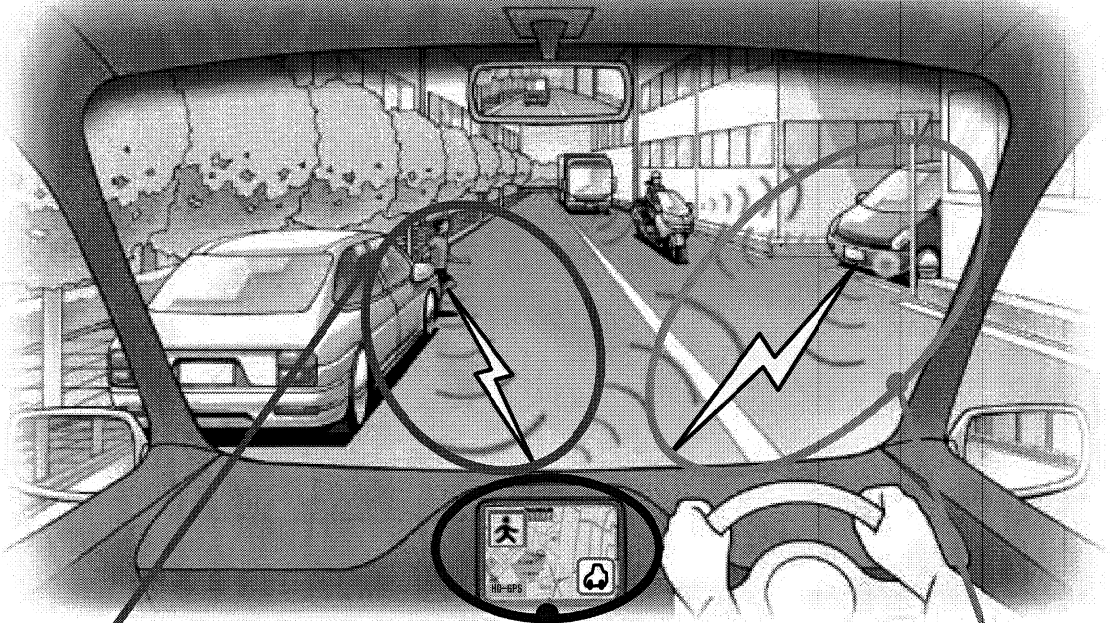
二. 戦略市場創造プラン

テーマ3

安全・便利で経済的な次世代インフラの構築

②ヒトやモノが安全・快適に移動することのできる社会

○安全運転支援システム、自動走行システムの開発・環境整備



歩車間通信を利用した 実証実験の実施と評価

○歩車間の通信により人身事故等の危険を警告する等の運転支援システムを開発するため、通信する情報内容(位置、進行方向等)や歩行者端末の規格を確定する。

総務省等と連携

- 注意喚起すべき事象(歩行者の飛び出し等)、注意喚起するタイミングを特定、車両制御への応用。
- 歩者間通信の実証実験を通じてデータ量や外乱等を勘案し、注意喚起・制御等を行うのに最低限必要な情報量等を把握。

路車連携型システムの開発・実用化に向けた車両とインフラの通信方法等の技術的要件の検討

○道路構造データ(車線情報や勾配情報等)を車両で取得し、位置情報を高度化することにより、車両制御の高度化(レーンキープアスタの高度化等)を目指す。

関係省庁と連携

- 車両の位置情報を高精度に把握するため、道路構造データをナビに組み込み。
- 位置精度向上に関する分析を行い、車両制御等への情報活用方法について検討。

車車間通信を利用した 実証実験の実施と評価

○車車間の通信により衝突事故等の危険を警告する等の運転支援システムを開発するため、通信する情報内容(位置や速度情報等)や車載機の規格を確定する。

総務省等と連携

- 注意喚起すべき事象(出会い頭、右左折等)、注意喚起するタイミングを特定、車両制御への応用。
- 車車間通信の実証実験を通じてデータ量や外乱等を勘案し、注意喚起・制御等を行うのに最低限必要な情報量等を把握。

先進技術に係る安全性・信頼性の確保のための技術的アプローチの検討

実感できる効果

出会い頭時の注意喚起や飛び出し時の注意喚起により事故防止が実現

将来的に自動運転につながる